

# 山岳レスキュースクール

上級



一般社団法人日本アルパインガイド協会 遭難対策委員会

## ま え が き

一般社団法人日本アルパイン・ガイド協会は、日本で唯一の公認プロフェッショナル・アルパイン・ガイド組織として1971年4月に創立されました。橋本龍太郎（元内閣総理大臣）を会長として28名の同志によって創立され同年7月厚生省を監督官庁（のちに環境庁ができ移管、現在は環境省）として社団法人となりました。以来42年、自然保護運動への積極的参加、正しい登山思想と登山技術の普及、山岳遭難の防止などの活動を行ってまいりました。そして今日、ますます増加した未組織登山者、中高年登山者のニーズに応えるべく公開登山教室、救助技術の普及などを行っています。

さて、2003年から始めました、レスキュー技術の普及活動とその技術認定も2019年の今年、16年を経過して、その16年余を省みるに、多くの講習生や技術認定受験者を迎えたわけですが、岩場でのオールマイティな救助活動がいかに難しいかを改めて知るところとなりました。それは技術認定者の数にも如実に表れています。

本来、上級レスキュー技術はアルパインガイドが必須の技術でもありますが、レスキューに特化した上級レスキュー技術認定者は昨年までの過去15年間で14名と一年当たり約1名となっています。

そこで、体系的な指導方法を再考して、上級者の技術を研修検定方式に変更するとともに、より山岳での実際のレスキュー活動に沿った内容とするスクールを開講するものとししました。平成26年度の6ヶ月を用いまして、その方式の試用期間を設け、当会準会員のレスキューリーダーを対象に、上級技術の研修・審査を実施し着実な技術向上を見ることが出来ましたので一般に公開するものです。また、上級に特化した内容のマニュアルの整備も必要となり、現在公開しています4章レスキュー技術とは別に上級者向けのマニュアルを用意することとなりました。このマニュアルについては、現段階では公開せずに上級レスキュースクール、ガイド研修のみで使用予定となっています。

当協会は、1997年度よりフランス国立登山スキー学校（E . N . S . A）と技術提携をいたしました。以来、ガイドを派遣し、またENS Aから教官を招いて、本場アルプスでの最新のガイディング技術、レスキュー技術を学んでまいりました。

よって、上級レスキュー技術の内容もENS Aの技術に沿ったものとなっています。



勝野惇司 校長

---

## 認定資格

上級レスキュー技術者、レスキューマスター（正会員）

上級レスキュー技術者認定

研修を通して所定のカリキュラム、および検定に合格したものを認定する。

レスキューマスター（正会員）

上級レスキュー技術認定者が、当協会会員になることを希望する場合は所定の手続きに基き資格審査委員会の審査を経てレスキューマスター（正会員）となることが出来る。

---

## 資格認定研修

レスキューマスターコース

- ① 6ヶ月間にて計15日の全ての研修に参加する。
- ② 実践的な山岳でのレスキュー技術講習・研修となる。

---

## レスキュースクール入校基準と研修内容について

書類審査規定

- (イ) 国籍、男女の別を問わない。
- (ロ) 年齢は出願時に20歳以上とする。
- (ハ) 登山経験、レスキュー技術経験
  - ・上級レスキュー技術研修に必要な登山経験、及び登山技術があるかを審査して入校を許可する。
  - ・中級レスキュー技術合格者、或いは相当の技術を保持すると認められる者。

研修教程（実技基礎）

◎基礎技術、引き上げ技術、降ろし技術

◎オーバーハングでの技術

オーバーハングを下降する技術、安全な支点の回収技術、下降用ランナーの回収技術、下降時の支点キャッチ技術

◎カウンターラッペル技術

カウンターラッペル支点、カウンターロープの使用法、空中でのカウンターラッペル技術、ハングでの宙吊りからカウンターラッペルによる救出技術、キャッチから同時降りによる救出、キャッチか

ら先降りによる救出、救助者の登り返しによる救出、トラバースルートでの救助方法、トラバースルートでの宙吊りからの救出技術

◎空中での懸垂下降失敗者の救助方法

懸垂下降支点（上部）からの救出、下降地点（下部）からの救出

◎ケガ人の応急処置

頭の怪我、手足の骨折箇所の手当て、脊椎損傷、等

◎梱包、搬送技術

背負い搬送、チロリアンブリッジ、固定ロープの使用、ストレッチャー、ネット担架を使用しての搬送

## 研修教程（実技応用）

◎登攀中のあらゆる状況での救助方法（想定されるあらゆる状況、その都度研修場所にて想定する。）

研修教程（机上）

◎机上講習内容（6回、国立オリンピック記念青少年センター会議室）

①救急が必要な状態への対応

②山岳遭難の原因

道迷い、転倒、転落、滑落、持病、発病、低体温症、熱中症、凍傷、疲労、雪崩、高山病、落雷、有毒ガス、天候の急変

③応急処置

心肺停止状態、呼吸停止、動脈出血、股関節脱臼、意識障害、毒蛇、骨折、捻挫、皮下出血、出血を伴った、切り傷、刺し傷、擦り傷、筋肉疲労、膝障害、打撲、肉離れ、やけど、痙攣、ギックリ腰、凍傷、高山病、靴擦れ

④レスキューの基礎技術

ロープの使用方法和選択、及び力学、レスキュー用具の知識と考え方

⑤状況別救助方法（実際の岩場を想定して行なう）

オーバーハングでの救助、大岩壁での救助

⑥レスキュー技術の指導と指導方法の標準化

⑦卒業式・懇親会

---

## 「レスキュースクール」申し込み方法

レスキュースクール入校には、下記の各書類を定められた期限内に提出する。また同時に書類審査料5千円を下記指定口座にお振り込みください。

### ★申込み・問い合わせ先

一般社団法人日本アルパイン・ガイド協会

〒249-0001 神奈川県逗子市久木7丁目7番19号

TEL 046-876-5193 FAX は電話に同じ。

<http://www.agsj.or.jp/> EMAIL : [office@agsj.or.jp](mailto:office@agsj.or.jp)

★申込み期限：該当年度の8月31日

### ★審査料振込先

三菱東京UFJ銀行 福生支店

普通 0068203 名義：シヤ)ニホンアルパインガイドキョウカイ

---

## 書類審査の合否通知と入校手続き

① 入校のための書類審査を行い、書類審査の合否を所定の期日までに通知致します。

書類審査合否の通知予定日： 申込後10日前後

② 書類審査合格通知が届き次第、「レスキュースクール」受講料として、次の金額をお振込み下さい。

入校費1万円、第一回の机上講習日までに入金。

9月末日までに 5万円

11月末日までに 5万円

1月末日までに 5万円 合計15万円です。

一括払いも可能ですが、退校を希望した場合にもその金額を返却出来ませんので予めご了承下さい。

尚、中途にてスクールの退校を希望される場合は、2ヶ月単位でそれを許可いたします。また、研修過程で講師により危険の度合いが高いと判断された場合は、2ヶ月単位で研修内容を判断し、退校処分とする場合があります。

遭難対策保険料金約1.5万円が別途必要となります。(志願者がすでに遭難対策保険に加入済みの場合は必要ありません。)

③ 定員 10名

---

## レスキュースクール

①登山は危険を伴うスポーツです。レスキューマスターは、山岳遭難対策、および救助における公共奉仕に協力しなくてはなりません。そのための手段、技術、モラルをガイドマニュアルの形で著し、職業技能レベルの均質化（スタンダード化）を計ります。レスキュースクールではこれらの内容を十全に修得できる様配慮されています。

- ・トレーニング研修には実技研修と机上研修があります。
- ・実技審査は志願者の知識、技術、能力、レスキューマスターとしての資質など養成期間中の評価および口頭試問によって有効とされる。

②各受講時の個人装備費用、交通費、宿泊費、食費は受講生の実費負担です。

③半年間の受講後、単位不足の場合は継続して入校することも可能です。ただし、改めて受講料を申し受けます。その場合、書類審査を免除します。

④受講生の事由により受講できない場合でも受講料の返却はいたしません。

⑤受講生の不注意による事故に対しては、一般社団法人日本アルパイン・ガイド協会及び担当講師がその責を負うものではありません。よって受講中は受講生自身が安全対策を心がけなくてはなりません。しかし事故に対しては協会の総力をあげて対処します。

---

## レスキュースクールスケジュール

該当年度毎に別途スケジュール表を配布します。

---

## 研修用マニュアルの購入について

レスキュースクールに入校を許可された段階で事務局までお申込み下さい。公開されているものと内容が違う場合があります。

（当協会オリジナル教本、スクール生販売価格¥2,500）

二章、共通技術

三章、ガイド専門技術-3、アルパインクライミングガイド技術

四章、山岳レスキュー技術

四章-2、(仮称)上級レスキュー技術（非売品、スクール生のみ対象に販売）